【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第１区分
【発行日】平成26年12月4日(2014.12.4)

【公表番号】特表2013-541824(P2013-541824A)
【公表日】平成25年11月14日(2013.11.14)
【年通号数】公開・登録公報2013-062
【出願番号】特願2013-537694(P2013-537694)
【国際特許分類】
Ｈ０１Ｒ　13/655　(2006.01)
Ｈ０１Ｒ　13/6592　(2011.01)
【ＦＩ】
Ｈ０１Ｒ　13/655
Ｈ０１Ｒ　13/6592

【手続補正書】
【提出日】平成26年10月16日(2014.10.16)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２０】
任意には、機械的コネクタ５８ａ、５８ｂ、６０ａおよび/又は６０ｂは、熱源にさらされる際に回復する形状記憶材料から製造される。ボディ２６の典型的な態様では、機械的コネクタ５８ａおよび５８ｂは実質的に相互に同一であり、機械的コネクタ６０ａおよび６０ｂは実質的に相互に同一である。従って、機械的コネクタ５８ａおよび６０ａの構造のみを詳細に本明細書で説明する。図４の詳細図Ａを参照すると、機械的コネクタ５８ａは切り欠き(又はノッチ；ｎｏｔｃｈ)６４および端部６６を有するラッチ突起部６２を含んで成る。任意には、切り欠き６４はラッチ突起部６２の径方向の内側６８内に延在している。切り欠き６４は頂部７４で交差する２つの壁７０および７２により規定される。壁７２は、ラッチ突起部６２のラッチ肩部(又はショルダー部；ｓｈｏｕｌｄｅｒ)７６を規定する。ラッチ突起部６２の端部６６は、壁７２からラッチ突起部６２の端壁７８まで延在している。下記で説明するように、ラッチ突起部６２は、セグメント２８およびセグメント３０の端部５０および端部５４の各々を一体的に接続するために、機械的コネクタ６０ａの溝８０内に受容されるように構成されている。ラッチ突起部６２が溝内に完全に受容される際、切り欠き６４は、一体的にコネクタ５８ａおよび６０ａを相互に接続するために機械的コネクタ６０ａのエンボス８２を受容する。より具体的には、エンボス８２が切り欠き６４内に受容される際、ラッチ突起部６２のラッチ肩部７６は、一体的にコネクタ５８ａおよび６０ａを相互に接続するためにエンボス８２のラッチ肩部８４と係合している。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２１】
切り欠き６４の壁７０および７２は、相互に任意の角度で延在していてよい。略平坦に示されているが、壁７０および/又は壁７２は、又、曲線状、（限定されるものではないが、ギザギザ、１つ又はそれよりも多いスレッド、１つ又はそれよりも多い溝、１つ又は

それよりも多いリッジ等）のテクスチャーを含んでよい。その上、ボディ２６の典型的な態様で示されているように、壁７０および壁７２は、とがった端部７４で接触しているというよりはむしろ(図示していないが)曲線状の端部で接触してもよい。ボディ２６の典型的な態様では、切り欠き６４は、エンボス８２の形状と相補的である三角形状を含んで成る。しかし、切り欠き６４は、切り欠き６４がエンボス８２の任意の形状と相補的である形状を含むかどうかに関わらず、三角形状に加えてそれ以外の他の形状を更に又はその代わりに含んでよい。

【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２５】
溝８０は、任意の形状を含むラッチ突起部６２を受容するための任意の形状を含んでよい。任意には、溝８０は、ラッチ突起部６２の１つ又はそれよりも多い形状と相補的な形状を含んでいる。エンボス８２は、任意の形状を含む切り欠き６４内に受容されるための任意の形状を含んでよい。ボディ２６の典型的な態様では、エンボス８２は、切り欠き６４の三角形状と相補的な三角形状を含んで成る。しかし、エンボス８２が切り欠き６４の任意の形状と相補的である形状を含むか否かに関わらず、エンボス８２は三角形以外の形状を更に又はその代わりに含んでよい。エンボス８２の壁９４および壁９６は相互に任意の角度で延在してよく、壁９４は多くの斜面を有するラッチ斜面１００を規定するための多くの斜面を有していてよい。壁９４および壁９６は本明細書に示す略平坦形状に限定されない。むしろ、壁９４および/又は壁９６は、その代わりに、曲線状、（限定されるものではないが、ギザギザ、１つ又はそれよりも多いスレッド、１つ又はそれよりも多い溝、１つ又はそれよりも多いリッジ等）のテクスチャー等を含んでよい。その上、壁９４および壁９６はボディ２６の典型的な態様で示されるように尖った頂部９８で接触しているというよりはむしろ、壁９４および壁９６は(図示していないが)曲線状の頂部で接触していてよい。平行六面体の形状を含むように示されているが、凹部１０２は、任意の形状を含むラッチ突起端部６６を受容するための任意の形状を含んでよい。

【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３１】
シールド端部２２がバックシェル１４のフィッティング２４に受容された後、時には取付けリング１６の「サイドエントリー」と呼ばれる、取付けリングのボディ２６を作る個々のセグメント２８およびセグメント３０により、取付けリング１６をシールド１８の端部２２に取り付けることが可能である。従って、シールド端部２２に取付けリング１６を位置付けるために、シールド１８の端部２２および電気ケーブル１２の絶縁電気導体を取付けリング１６を介して供する必要がない。その上、取付けリング１６をシールド２２の他端部に位置付けることなく、又電気ケーブル１２の全長に沿ってシールド端部２２まで取付けリング１６を動かすことなく、シールド２２をフィッティング２４に受容させた後、取付けリング１６のボディ２６のサイドエントリーにより、取付けリング１６をシールド端部２２に位置付けることができる。

【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３９
【補正方法】変更
【補正の内容】

【００３９】

機械的コネクタ４５８aおよび機械的コネクタ５６０aは相互関係を有する形状を有して成る。機械的コネクタ４５８aは、基部４６４および端部４６６を有するラッチ突起部４６２を有して成る。ラッチ突起部４６２の端部４６６は、ラッチ突起部４６２のラッチ肩部４７６を規定する後方壁４７０を有して成る。機械的コネクタ４６０aは、セグメント４３０の端部４５４に延在する溝４８０を有して成る。任意には、溝４８０はセグメント４３０の端部４５４の端壁４８６を介して延在する。溝４８０は、機械的コネクタ４６０aの対向する非ねじれ部材５０４間に延在する溝セグメント４８８を有して成る。非ねじれ部材５０４の後方壁は、溝４８０のラッチ肩部４９０を規定する。又、溝４８０は、溝４８０のラッチ肩部４９０と端壁４９４との間に規定される凹部４９２を有して成る。